



# コンフィギュレーションのインポート/エクスポート

- [コンフィギュレーションのインポート/エクスポートについて \(1 ページ\)](#)
- [コンフィギュレーションのインポート/エクスポート用暗号キーの設定 \(2 ページ\)](#)
- [FXOS コンフィギュレーションファイルのエクスポート \(4 ページ\)](#)
- [自動設定エクスポートのスケジューリング \(5 ページ\)](#)
- [設定エクスポート リマインダの設定 \(7 ページ\)](#)
- [コンフィギュレーションファイルのインポート \(8 ページ\)](#)

## コンフィギュレーションのインポート/エクスポートについて

Firepower 4100/9300 シャーシの論理デバイスとプラットフォームのコンフィギュレーション設定を含む XML ファイルをリモートサーバにエクスポートするコンフィギュレーションのエクスポート機能を使用できます。そのコンフィギュレーションファイルを後でインポートして Firepower 4100/9300 シャーシに迅速にコンフィギュレーション設定を適用し、よくわかっている構成に戻したり、システム障害から回復させたりすることができます。

### 注意事項および制約事項

- FXOS 2.6.1 から、暗号キーを設定できるようになりました。コンフィギュレーションをエクスポートする前に、暗号キーを設定する必要があります。エクスポートしたコンフィギュレーションをインポートするときには、システムに同じ暗号キーを設定する必要があります。エクスポート時に使用したものと一致なくなるように暗号キーを変更した場合、インポート操作は失敗します。エクスポートした各コンフィギュレーションに使用した暗号キーを必ず記録しておいてください。
- コンフィギュレーションファイルの内容は、修正しないでください。コンフィギュレーションファイルが変更されると、そのファイルを使用するコンフィギュレーションインポートが失敗する可能性があります。

- 用途別のコンフィギュレーション設定は、コンフィギュレーションファイルに含まれていません。用途別の設定やコンフィギュレーションを管理するには、アプリケーションが提供するコンフィギュレーションバックアップツールを使用する必要があります。
- Firepower 4100/9300 シャーシへのコンフィギュレーションのインポート時、Firepower 4100/9300 シャーシのすべての既存のコンフィギュレーション（論理デバイスを含む）は削除され、インポートファイルに含まれるコンフィギュレーションに完全に置き換えられます。
- コンフィギュレーションファイルのエクスポート元と同じ Firepower 4100/9300 シャーシだけにコンフィギュレーションファイルをインポートすることをお勧めします。
- インポート先の Firepower 4100/9300 シャーシのプラットフォーム ソフトウェア バージョンは、エクスポートしたときと同じバージョンになるはずですが、異なる場合は、インポート操作の成功は保証されません。シスコは、Firepower 4100/9300 シャーシをアップグレードしたりダウングレードしたりするたびにバックアップ設定をエクスポートすることを推奨します。
- インポート先の Firepower 4100/9300 シャーシでは、エクスポートしたときと同じスロットに同じネットワーク モジュールがインストールされている必要があります。
- インポート先の Firepower 4100/9300 シャーシでは、インポートするエクスポート ファイルに定義されているすべての論理デバイスに、正しいソフトウェア アプリケーション イメージがインストールされている必要があります。
- インポートするコンフィギュレーションファイルに、そのアプリケーションにエンドユーザライセンス契約書 (EULA) がある論理デバイスが含まれていると、コンフィギュレーションをインポートする前に、そのアプリケーションの EULA が Firepower 4100/9300 シャーシで受け入れられている必要があります。受け入れられていない場合、操作は失敗します。
- 既存のバックアップファイルが上書きされるのを回避するには、バックアップ操作時にファイル名を変更するか、既存のファイルを別の場所にコピーしてください。

## コンフィギュレーションのインポート/エクスポート用暗号キーの設定

コンフィギュレーションをエクスポートするときに、FXOS はパスワードやキーなどの機密データを暗号化します。

FXOS 2.6.1 から、暗号キーを設定できるようになりました。コンフィギュレーションをエクスポートする前に、暗号キーを設定する必要があります。エクスポートしたコンフィギュレーションをインポートするときには、システムと同じ暗号キーを設定する必要があります。エクスポート時に使用したものと一致なくなるように暗号キーを変更した場合、インポート操作は失敗します。エクスポートした各コンフィギュレーションに使用した暗号キーを必ず記録しておいてください。

2.6.1 より前のリリースの FXOS からエクスポートしたコンフィギュレーションを FXOS 2.6.1 以降にインポートする場合、システムは暗号キーをチェックせずにインポートを許可します。



- (注) インポート先のプラットフォームのソフトウェアバージョンが、エクスポート実行時と同じバージョンではない場合、インポート操作を正常に実行できる保証はありません。シスコは、Firepower 4100/9300 シャーシをアップグレードしたりダウングレードしたりするたびにバックアップ設定をエクスポートすることを推奨します。

## 手順

**ステップ 1** FXOS CLI から、セキュリティ モードに入ります。

### scope security

例 :

```
Firepower# scope security
Firepower /security #
```

**ステップ 2** 暗号キーを設定します。

### set password-encryption-key

キーを入力します。 *encryption\_key*

キーを確認します。 *encryption\_key*

*Encryption\_key* の長さは 4 ~ 40 文字である必要があります。

例 :

```
Firepower /security #set password-encryption-key
Enter a key:
Confirm the key:
Firepower /security* #
```

**ステップ 3** 設定をコミットします。

### commit-buffer

例 :

```
Firepower /security* #commit-buffer
Firepower /security #
```

# FXOS コンフィギュレーション ファイルのエクスポート

エクスポート設定機能を使用して、Firepower 4100/9300 シャーシの論理デバイスとプラットフォーム構成設定を含む XML ファイルをリモート サーバまたはにエクスポートします。

エクスポート機能の使用に関する重要な情報については、「[コンフィギュレーションのインポート/エクスポートについて](#)」を参照してください。

## 手順

**ステップ 1** コンフィギュレーション ファイルをリモート サーバにエクスポートするには、次の操作を行います。

**scope system**

**export-config** *URL* **enabled** **commit-buffer**

次のいずれかの構文を使用してインポートされるファイルの URL を指定します。

- **ftp://username@hostname/path/image\_name**
- **scp://username@hostname/path/image\_name**
- **sftp://username@hostname/path/image\_name**
- **tftp://hostname:port-num/path/image\_name**

(注) ファイル名を含むフルパスを指定する必要があります。ファイル名を指定しないと、指定したパスに非表示ファイルが作成されます。

例：

```
Firepower-chassis# scope system
Firepower-chassis /system # export-config scp://user1@192.168.1.2:/export/cfg-backup.xml
enabled
Firepower-chassis /system/export-config # commit-buffer
```

**ステップ 2** エクスポート タスクのステータスを確認するには以下を行います。

**scope system**

**scope export-config** *hostname*

**show fsm status**

例：

```
Firepower-chassis# scope system
Firepower-chassis /system # scope export-config 192.168.1.2
Firepower-chassis /system/export-config # show fsm status

Hostname: 192.168.1.2

FSM 1:
Remote Result: Not Applicable
```

```
Remote Error Code: None
Remote Error Description:
Status: Nop
Previous Status: Backup Success
Timestamp: 2016-01-03T15:32:08.636
Try: 0
Progress (%): 100
Current Task:
```

**ステップ 3** 既存のエクスポート タスクを表示するには以下を行います。

```
scope system
show export-config
```

**ステップ 4** 既存のエクスポート タスクを変更するには以下を行います。

```
scope system
scope export-config hostname
```

エクスポート タスクを変更するには、次のコマンドを使用します。

- **{enable|disable}**
- **set description** <description>
- **set password** <password>
- **set port** <port>
- **set protocol** {ftp|scp|sftp|tftp}
- **set remote-file** path\_and\_filename
- **set user** <user>

**ステップ 5** エクスポート タスクを削除するには以下を行います。

```
scope system
delete export-config hostname
commit-buffer
```

## 自動設定エクスポートのスケジューリング

スケジュールされたエクスポート機能を使用して、Firepower 4100/9300 シャーシの論理デバイスとプラットフォーム構成設定を含む XML ファイルをリモートサーバまたはにエクスポートします。エクスポートは、毎日、毎週、または2週間ごとに実行されるようにスケジュールできます。設定のエクスポートは、スケジュールされたエクスポート機能がいつ有効になるかに基づき、スケジュールに従って実行されます。そのため、たとえば週ごとのスケジュールされ

たエクスポートが水曜日の午後 10 時に有効になる場合、システムは新しいエクスポートを水曜日の午後 10 時ごとに開始します。

エクスポート機能の使用に関する重要な情報については、「[コンフィギュレーションのインポート/エクスポートについて](#)」を参照してください。

## 手順

スケジュールされたエクスポート タスクを作成するには、次のようにします。

- a) ポリシー設定をエクスポートする範囲を設定します。

**scope org**

**scope cfg-export-policy default**

- b) エクスポート ポリシーを有効にします。

**set adminstate enable**

- c) リモート サーバとの通信で使用するプロトコルを指定します。

**set protocol {ftp|scp|sftp|tftp}**

- d) バックアップファイルを格納する場所のホスト名または IP アドレスを指定します。サーバ、ストレージレイ、ローカルドライブ、または Firepower 4100/9300 シャーシがネットワーク経由でアクセス可能な任意の読み取り/書き込みメディアなどを指定できます。

IP アドレスではなくホスト名を使用する場合、DNS サーバを設定する必要があります。

**set hostname hostname**

- e) デフォルト以外のポートを使用する場合は、ポート番号を指定します。

**set port port**

- f) リモート サーバにログインするためのユーザ名を指定します。プロトコルが TFTP の場合、このフィールドは適用されません。

**set user username**

- g) リモート サーバのユーザ名のパスワードを指定します。プロトコルが TFTP の場合、このフィールドは適用されません。

**set password password**

- h) ファイル名を含むコンフィギュレーションファイルをエクスポートする場所のフルパスを指定します。ファイル名を省略すると、エクスポート手順によって、ファイルに名前が割り当てられます。

**set remote-file path\_and\_filename**

- i) 設定を自動的にエクスポートするスケジュールを指定します。これは、[Daily]、[Weekly]、または [BiWeekly] のいずれかにできます。

**set schedule {daily|weekly|bi-weekly}**

j) トランザクションをシステム設定にコミットします。

**commit-buffer**

例：

```
Firepower-chassis# scope org
Firepower-chassis /org # scope cfg-export-policy default
Firepower-chassis /org/cfg-export-policy # set adminstate enable
Firepower-chassis /org/cfg-export-policy* # set protocol scp
Firepower-chassis /org/cfg-export-policy* # set hostname 192.168.1.2
Firepower-chassis /org/cfg-export-policy* # set remote-file /export/cfg-backup.xml
Firepower-chassis /org/cfg-export-policy* # set user user1
Firepower-chassis /org/cfg-export-policy* # set password
Password:
Firepower-chassis /org/cfg-export-policy* # set schedule weekly
Firepower-chassis /org/cfg-export-policy* # commit-buffer
Firepower-chassis /org/cfg-export-policy #
Firepower-chassis /org/cfg-export-policy # show detail
```

```
Config Export policy:
  Name: default
  Description: Configuration Export Policy
  Admin State: Enable
  Protocol: Scp
  Hostname: 192.168.1.2
  User: user1
  Remote File: /export/cfg-backup.xml
  Schedule: Weekly
  Port: Default
  Current Task:
```

## 設定エクスポート リマインダの設定

設定エクスポートが特定の日数実行されていないときにシステムにエラーを生成させるには、エクスポート リマインダ機能を使用します。

手順

設定エクスポート リマインダを作成するには次のようにします。

**scope org**

**scope cfg-export-reminder**

**set frequency *days***

**set adminstate {enable|disable}**

**commit-buffer**

例：

```
Firepower-chassis# scope org
Firepower-chassis /org # scope cfg-export-reminder
```

```
Firepower-chassis /org/cfg-export-reminder # set frequency 10
Firepower-chassis /org/cfg-export-reminder* # set adminstate enable
Firepower-chassis /org/cfg-export-reminder* # commit-buffer
Firepower-chassis /org/cfg-export-reminder # show detail
```

```
Config Export Reminder:
  Config Export Reminder (Days): 10
  AdminState: Enable
```

## コンフィギュレーション ファイルのインポート

設定のインポート機能を使用して、Firepower 4100/9300 シャーシからエクスポートした構成設定を適用できます。この機能を使用して、既知の良好な構成に戻したり、システム障害を解決したりできます。インポート機能の使用に関する重要な情報については、「[コンフィギュレーションのインポート/エクスポートについて](#)」を参照してください。

### 手順

**ステップ 1** コンフィギュレーション ファイルをリモート サーバからインポートするには、次の操作を行います。

**scope system**

**import-config** *URL* **enabled**

**commit-buffer**

次のいずれかの構文を使用してインポートされるファイルの URL を指定します。

- **ftp://username@hostname/path/image\_name**
- **scp://username@hostname/path/image\_name**
- **sftp://username@hostname/path/image\_name**
- **tftp://hostname:port-num/path/image\_name**

例：

```
Firepower-chassis# scope system
Firepower-chassis /system # import-config scp://user1@192.168.1.2:/import/cfg-backup.xml
enabled
Warning: After configuration import any changes on the breakout port configuration will
cause the system to reboot
Firepower-chassis /system/import-config # commit-buffer
```

**ステップ 2** インポート タスクのステータスを確認するには以下を行います。

**scope system**



**scope import-config hostname**

**show fsm status**

例：

```
Firepower-chassis# scope system
Firepower-chassis /system # scope import-config 192.168.1.2
Firepower-chassis /system/import-config # show fsm status

Hostname: 192.168.1.2

FSM 1:
  Remote Result: Not Applicable
  Remote Error Code: None
  Remote Error Description:
  Status: Import Wait For Switch
  Previous Status: Import Config Breakout
  Timestamp: 2016-01-03T15:45:03.963
  Try: 0
  Progress (%): 97
  Current Task: updating breakout port configuration(FSM-STAGE:sam:dme:
    MgmtImporterImport:configBreakout)
```

**ステップ 3** 既存のインポート タスクを表示するには以下を行います。

**scope system**

**show import-config**

**ステップ 4** 既存のインポート タスクを変更するには以下を行います。

**scope system**

**scope import-config hostname**

インポート タスクを変更するには、次のコマンドを使用します。

- **{enable|disable}**
- **set description <description>**
- **set password <password>**
- **set port <port>**
- **set protocol {ftp|scp|sftp|tftp}**
- **set remote-file path\_and\_filename**
- **set user <user>**

**ステップ 5** インポート タスクを削除するには以下を行います。

**scope system**

**delete import-config hostname**

**commit-buffer**

---